

23. 情報学研究科

(1) 情報学研究科の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・	23-2
(2) 「教育の水準」の分析	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	23-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	23-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	23-7
【参考】データ分析集 指標一覧	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	23-8

(1) 情報学研究科の教育目的と特徴

情報学研究科は 21 世紀の新たな学域「情報学」の京都大学からの発信を目指して、わが国の情報学の祖であり当時は京都大学教授であった長尾眞名誉教授（2018 年文化勲章受賞）のリーダーシップにより 1998 年に発足した。その根幹の思想は、様々な学術・技術等の中にある「情報」を横糸的な視点で抽出し、縦糸である多様化する学術・技術を「情報」の視点で統合して新たな学域を織り出そうとするものである。別の視点からいえば、いわゆる理系学術であった従来の情報科学や情報工学等を包括する新たな学域の創生を目指すものである。情報学研究科ではこの視点を「広い意味での情報学」と呼び、研究科の目指す情報学の広がりや常意識している。

具体的には、上述の長尾名誉教授の思想を踏まえ、情報学研究科は発足時に「京都大学の情報学は、自然および人工システムにおける情報に関する学問領域である。情報学は、複雑で動的に変化するシステムにおける、情報の生成、認識、表現、収集、組織化、最適化、変換、伝達、評価、制御を対象とする。情報学は、人文学、社会学、認知科学、生物学、言語学、計算機科学、数理科学、システム科学、および通信工学的な側面を持つ。情報学は、人文社会科学や自然科学の領域と相互に密接な関係を持つ。情報学は様々な分野からの寄与を得て発展し、情報学もまた様々な分野の更なる発展に貢献する。人間と社会へのインターフェース、数理モデリング、および情報システムは、京都大学情報学の 3 本柱を構成する。」という内容をその学術対象として掲げ、「広い意味での情報学」をキーワードとする教育研究活動を行っている。

さらに 2008 年 10 月 10 日には、教授会決議として情報学研究科の教育研究上の目的を再定義し、「情報学研究科は、人間と社会とのインターフェース、数理的モデリング、および情報システムを 3 本柱として創設され、情報学の新たな学問領域を開拓し、総合的な視野から先駆的・独創的な学術研究を推進することで、情報学の国際的研究拠点としての役割を果たすことを目指している。また、高度な研究能力と豊かな学識を涵養することで、情報学を発展させる研究者、および、質の高い専門的職業人を養成し、知識社会のさまざまな課題を解決するリーダーとなる視野の広い優れた人材を育成することを教育の目的としている。さらに、産官学連携・地域連携や社会への情報発信を通して、健全で調和の取れた知識社会の発展に寄与し、京都大学の基本理念である『地球社会の調和ある共存』に貢献する事が情報学研究科の大きな目標である。」と定め、この内容は研究科ホームページを含む様々な広報手段によって周知が図られている。また「京都大学の基本理念」とこの教育研究上の目的に従い、情報学研究科の「入学者の受け入れ方針」、「教育課程の編成・実施の方針」、「学位授与の方針」は定められている。

情報学研究科のこの教育研究の目的の実現のために、組織面では研究科の専任教員に加えて協力講座や大学院兼担により学内教員の協力を得、また他大学や企業等と連携して教育を推進する制度も組み込んでいる。教育課程編成上の特徴は、選択必修の研究科の共通教育と各専攻の専門教育を教育の両輪と位置づけていることである。また基幹となる教育課程の他に外部資金等を利用した種々の教育プログラムの展開や学内の大学院共通教育との連携など、俯瞰力と国際性をもった研究者・高度専門人の育成を行っている。学生の受け入れに際しては、本研究科が学部と独立な独立研究科である特徴を活かし、多様な学生選抜を実施して理系・文系、学内・学外、国内・国外によらず、さらには社会人も含め、異なる背景の意欲のある優秀な人材の受け入れを心掛けている。

また情報学研究科は想定する関係者（ステークホルダー）を出身者の活躍する産官学界と、志願者を含む学生に大別して、適切な対応を行っている。情報化された現代社会においては「広い意味での情報学」は殆ど全ての産業・学術と関わりを持っている。産業分野では、いわゆる AI、データサイエンスや IT 技術が不可欠な分野は特に密接な関係にあると考えられる。そこでは知識や技術だけではなく、個々の知識と技術を統合して諸問題に取り組み、グローバルで多様な価値観から問題解決を図る人材の輩出が期待されている。学術的には、広義に捉えた情報学が内包する情報科学・情報工学・数理科学等の研究分野で活躍し、さらにそれらを包括する新たな学問領域を創成して世界に向けて発信できる人材の輩出が期待されていると考えている。また本研究科の志願者と在学学生からは、社会の第一線での活躍を目指し、情報学に係る多様で高度な技術・知識並びに国際性が身に付く教育の実施が期待されていることを自覚し、教育の質の向上、特に内部質保証に留意した教育体制の整備に努めている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目 I 教育活動の状況

<必須記載項目 1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5223-i1-1）※2019 年度改定版

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

○情報学研究科が参画する博士課程学位プログラムに対しては、「博士(情報学)」に係る情報学分野よりもさらに広い学域の学術については、当該プログラムの修了要件を踏まえて「博士(総合学術)」の授与審査を研究科で行うことが可能となる制度を導入している。この制度に基づき、研究科の参画するリーディング大学院プログラム「デザイン学大学院連携プログラム」の修了者(平成 29 年度 1 名、平成 30 年度 1 名)に対して、「博士(総合学術)」の授与に係る学位審査を行った。(1.0) (別添資料 5223-i1-2 情報学研究科博士学位論文審査規程)

<必須記載項目 2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5223-i2-1※～2）※2019 年度改定版

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

○情報学研究科の掲げる「広い意味での情報学」を目的とする人材育成のため、学修意欲と一定の基礎学力を前提に、幅広い背景を持つ入学者の受け入れを積極的に行っている。特に修士課程では学内外、国内外の多様な学部出身者の受け入れに対してきめ細やかな教育を行うため、京都大学の基本理念で謳われる「対話を根幹とする自学自修」にも配慮して、face-to-face での履修指導を行い、個々の学生の学力と希望進路を考慮した専攻学術のコースツリーを示して教育効果をあげる取り組みを行っている。(2.0) (別添資料 5223-i2-3 情報学研究科アドミッション・ポリシー (2019 年 11 月 18 日現在))

<必須記載項目 3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
(別添資料 5223-i3-1～2)
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料

京都大学情報学研究科 教育活動の状況

(別添資料 5223-i3-3)

- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 5223-i3-4～6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○学部段階で様々な学術背景をもつ多様な入学者の受け入れに対して、研究科の理念の涵養を目的に、修士課程では選択必修の研究科共通科目（「情報学展望」等）を開講して大学院での専門教育としての教養教育の充実を図っている。また各専攻科目は専攻基礎科目・専攻専門科目の階層構造をとり、専攻基礎科目は選択必修あるいはガイダンスを通じた強い履修指導を行い、大学院基礎教育を重視したカリキュラムを展開している。また複数の博士課程教育リーディングプログラム（「グローバル生存学大学院連携プログラム」、「デザイン学大学院連携プログラム」）に参画し、学生の希望に応じて、「横糸」としての情報学の視点から幅広い学術での学修・研究の機会を与えている。2017年には長期履修制度を導入し、女性研究者の増加も視野に入れ、育児・介護に対してもこの制度の適用が可能となるようにした。介護による長期履修制度の活用が2019年度に1件承認され、2020年度から適用される見通しである。

（別添資料 5223-i3-7 情報学研究科履修届関係資料（2019年度）、5223-i3-8 情報学研究科大学院学修要覧（2019年度）【抜粋】、5223-i3-9 京都大学リーディング大学院関係資料（2019年度）、5223-i3-10 京都大学情報学研究科における長期履修学生制度に関する取扱要領、5223-i3-11 情報学研究科教授会（2019年12月13日開催）議事録） [3.1] [3.2]

○組織面では、京都大学の「産学共同講座」の制度を活用し、学外企業6社と連携して2018年に情報学ビジネス実践講座を設置した。この講座は、本学における「産学共同講座」の制度適用の第1号である。この講座は企業活動における種々のIT化やAI活用を情報学の観点から取り上げて教育するもので、情報学研究科内の専門教育に加えて、科目提供によって京都大学大学院共通教育、ならびに学部の全学共通科目への寄与も図っている。学部と大学院を併せて3つの教育プログラムを展開し、2019年度からプログラムを開始した。

（別添資料 5223-i3-12 情報学研究科ビジネス実践講座（2018年度）） [3.1]

○教育の国際化を推進するため、修士課程で英語のみで修了可能な国際コースを設置し、国際コース関係科目も含めて、大学院科目の英語化を進めている。（英語で履修できる科目は、全開講科目の約25%）なお、博士課程では多くのセミナー等が従前より英語で行われている。このほか、希望学生の申請に基づき、情報学の知見を生か

したボランティア活動の単位認定を行う制度も導入している。（但し、この科目の単位は修了要件には含めない。） [3.1]

○選択必修科目の一つの「情報学展望2」は、2017年より科目内容を一新し、情報学の俯瞰を目指したカリキュラムを展開している。具体的には担当教員の提案に基づいて授業計画と内容を教務委員会で審議し、外部から複数の講師も招いて、「広い意味での情報学」の俯瞰を目指している。（5223-i3-13 情報学研究科「情報学展望2」シラバス（2019年度）） [3.1]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
（別添資料 5223-i4-1～2）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
（別添資料 5223-i4-3）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
（別添資料 5223-i4-4）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
（別添資料 5223-i4-5）
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 5223-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 5223-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料
（別添資料 5223-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 5223-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 5223-i6-1）※2019 年度改訂版
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 5223-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 5223-i6-3～4）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 5223-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 5223-i7-3～9）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 5223-i7-10～17）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 5223-i7-18～22）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 5223-i7-23～26）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5223-i8-1）※2019 年度改定版
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 5223-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5223-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5223-ii1-2 ）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数/学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数/学生数
	3	留学生の割合	留学生数/学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数/学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数/学生数
	6	受験者倍率	受験者数/募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数/入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数/学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数/専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数/専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数/本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数/本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤・常勤以外別)	職員総数(常勤)/本務教員総数 職員総数(常勤以外)/本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数/学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数/学生数
	16	休学率	休学者数/学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数/卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数/卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数/受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数/卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数/卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数/卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数/就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数/就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。